

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3670048号
(P3670048)

(45) 発行日 平成17年7月13日(2005.7.13)

(24) 登録日 平成17年4月22日(2005.4.22)

(51) Int.Cl.⁷

A 4 5 D 40/12

A 4 5 D 40/06

F I

A 4 5 D 40/12

A 4 5 D 40/06

D

請求項の数 2 (全 6 頁)

(21) 出願番号	特願平7-61881	(73) 特許権者	000006909
(22) 出願日	平成7年2月24日(1995.2.24)		株式会社吉野工業所
(65) 公開番号	特開平8-228835		東京都江東区大島3丁目2番6号
(43) 公開日	平成8年9月10日(1996.9.10)	(74) 代理人	100068157
審査請求日	平成13年7月30日(2001.7.30)		弁理士 今岡 良夫
前置審査		(72) 発明者	土田 治夫
			東京都江東区大島3の2の6 株式会社吉野工業所内
		審査官	岩田 洋一
		(56) 参考文献	実開昭63-068919(JP, U)
			実開昭60-129211(JP, U)
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 棒状化粧品繰出し容器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

短小の基筒1から案内縦長孔3を有する案内起立筒2を突設し、該案内起立筒2の外側に、内周面に螺旋溝5を形成した回転筒4を回転自在に嵌合保持させ、また、その案内起立筒2の内側に、棒状化粧品Aを起立させる中皿6を摺動自在に嵌合させ、該中皿の下面の前後から一対の支持片16を垂設し、これら両支持片の左右両縁から、巾方向中間部を左右外方への突端として屈曲させた左右一対の板ばね7を突設させて、両支持片16から両板ばね7に亘る横断面形状をほぼ十字状とし、かつ上記各板ばね7の突端に突子8を突設して、該突子を前記案内縦長孔3に摺動自在に貫通させて前記螺旋溝5へ摺動自在に挿入させるとともに、上記板ばね7の弾力で螺旋溝5の内面へ圧接させたことを特徴とする棒状化粧品繰出し容器。

【請求項2】

上記突子8は球面状の先端面9を有することを特徴とする、請求項1記載の棒状化粧品繰出し容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本発明は、中皿の径を拡張させた棒状化粧品繰出し容器に関する。

【0002】

【従来の技術】

10

20

従来のこの種の容器に、実開平3 - 123423号公報のものがある。この棒状化粧品繰出し容器は、案内縦長孔を有する案内筒の外側に、内周面に螺旋溝を形成した回転筒を回転自在に嵌合させるとともに、その案内筒の内側に、棒状化粧品を起立させる中皿を摺動自在に嵌合させ、該中皿の外面の適所から突子を突設し、かつ、該突子を前記案内縦長孔に摺動自在に貫通させて前記螺旋溝に摺動自在に挿入させることにより、回転筒の左右の回転で中皿を昇降させる螺旋昇降手段を構成しており、そして、案内筒の基端部に、上縁から複数の圧接片を突設した板ばね製のリングを嵌着し、各圧接片を回転筒の端部へ摺動自在に圧接させて、回転筒の回転に摩擦抵抗による一定の制動力を与え、回転筒の不安定な自由動を制限している。

【0003】

10

【発明が解決しようとする課題】

しかし、そのような構造では、回転筒の回転を適度に制動できても肝心の棒状化粧品が中皿の不安定性から使用中に移動又はガタツキを生ずることがあり、また、構造が複雑なものとなって、コスト高を招く。

そこで、請求項1及び請求項2の発明は、それらの問題点を解決しようとするものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】

上記目的達成のため、請求項1の発明は、短小の基筒1から案内縦長孔3を有する案内起立筒2を突設し、該案内起立筒2の外側に、内周面に螺旋溝5を形成した回転筒4を回転自在に嵌合保持させ、また、その案内起立筒2の内側に、棒状化粧品Aを起立させる中皿6を摺動自在に嵌合させ、該中皿の下面の前後から一対の支持片16を垂設し、これら両支持片の左右両縁から、巾方向中間部を左右外方への突端として屈曲させた左右一対の板ばね7を突設させて、両支持片16から両板ばね7に亘る横断面形状をほぼ十字状とし、かつ上記各板ばね7の突端に突子8を突設して、該突子を前記案内縦長孔3に摺動自在に貫通させて前記螺旋溝5へ摺動自在に挿入させるとともに、上記板ばね7の弾力で螺旋溝5の内面へ圧接させたことを特徴とする。

20

【0005】

請求項2の発明は、上記請求項1の発明の構成を有し、かつ上記突子8は球面状の先端面9を有することを特徴とする。

30

【0006】

【作用】

如上の構成であるから、いずれの発明にあっても、基筒1に対し回転筒4を右又は左に回転させれば、中皿6の突子8が案内起立筒2の案内縦長孔3に案内されつつ回転筒4の螺旋溝5内を昇降摺動し、その中皿6の上端から起立させた棒状化粧品Aが回転筒4から突出し又は回転筒4内に没入する。

また、その際、板ばね7の弾力で螺旋溝5の内面へ圧接されている突子8は、その昇降摺動に摩擦抵抗による適度な制動力を生じさせ、中皿6ひいては該中皿から起立する棒状化粧品Aの無用な移動やガタツキを無くする。

【0007】

40

【実施例】

図面は、請求項1及び請求項2の発明に係る棒状化粧品繰出し容器の実施例を示している。

図において、1は、短小の基筒、2は、該基筒の上端から突設した案内起立筒、4は、該案内起立筒2の外側に回転自在に嵌合させた回転筒、6は、その案内起立筒2の内側に摺動自在に嵌合させた中皿であり、これらは、その回転筒4の右又は左の回転で中皿6を昇降摺動させる螺旋昇降手段を構成している。

基筒1は、下端に内向きフランジ10を有し、上端外縁に凹段部11を周設している。

案内起立筒2は、基筒1の上端内縁から薄い肉厚で一体に起立させ、該案内起立筒には、左右一対の案内縦長孔3を穿設し、上端外縁に回転筒抜け止め用の係止突条12を周設し

50

ている。ただし、一方の案内縦長孔 3 は、上端を開放させて組み立ての便を図っている。

回転筒 4 は、合成樹脂製胴筒 13 の外周に、上下にやや長い金属製化粧筒 14 を嵌合一体化させ、その合成樹脂製胴筒 13 には、内周面に左右一対の螺旋溝 5 を設けて、該内周にて案内起立筒 2 の外側に回転自在に嵌合させ、上端を案内起立筒 2 の係止突条 12 に係合させて抜け止めし、また、突出するその金属製化粧筒 14 の下端を基筒 1 の凹段部 11 の上に挿入させ、かつ、上端を案内起立筒 2 の上に被せている。

中皿 6 は、内向きフランジによる孔開き底壁 15 を有し、該孔開き底壁の下面の前後から一対の支持片 16 を垂設し、両支持片から平面形状凸字状に屈曲させた左右一対の板ばね 7 をそれぞれ突端を両側へ向けて突設させて、換言すれば上記支持片の左右両縁から、巾方向中間部を左右外方への突端として屈曲させた左右一対の板ばね 7 を突設させて、両支持片 16 から両板ばね 7 に亘る横断面形状をほぼ十字形とし、かつ各板ばね 7 の突端にそれぞれ先端面 9 が球面状をなす突子 8 を突設し、各突子をそれぞれ前記案内縦長孔 3 に摺動自在に貫通させて前記螺旋溝 5 へ摺動自在に挿入させるとともに、各球面状先端面 9 をそれぞれ上記板ばね 7 の弾力で螺旋溝 5 の溝底面へ圧接させている。

而して、中皿 6 から棒状化粧品 A を起立させ、回転筒 4 を右又は左に回転させることにより、中皿 6 の突子 8 を案内起立筒 2 の案内縦長孔 3 に案内させつつ回転筒 4 の螺旋溝 5 に昇降摺動させて、中皿 6 を案内起立筒 2 にて昇降動させ、棒状化粧品 A を回転筒 4 から突出させ又は回転筒 4 内に没入させるが、その際、板ばね 7 の弾力で螺旋溝 5 の溝底面へ圧接されている突子 8 は、その昇降摺動に摩擦抵抗による適度な制動力を生じさせ、中皿 6 及び棒状化粧品 A の無用な移動やガタツキを無くする。

【 0 0 0 8 】

【発明の効果】

請求項 1 及び請求項 2 の発明によれば、回転筒 4 の左右の回転で中皿 6 を昇降させる螺旋昇降手段を構成した棒状化粧品繰出し容器において、上記中皿の下面の前後から一対の支持片 16 を垂設し、これら両支持片の左右両縁から、巾方向中間部を左右外方への突端として屈曲させた左右一対の板ばね 7 を突設させて、両支持片 16 から両板ばね 7 に亘る横断面形状をほぼ十字状とし、かつ上記各板ばね 7 の突端に突子 8 を突設したから、又該突子を前記案内縦長孔 3 に摺動自在に貫通させて前記螺旋溝 5 へ摺動自在に挿入させるとともに、上記板ばね 7 の弾力で螺旋溝 5 の内面へ圧接させているので、突子 8 の昇降摺動に摩擦抵抗による適度な制動力を生じさせることができ、中皿 6 の安定性を確保できて、使用中に中皿 6 及び該中皿から起立させた棒状化粧品 A に不意の移動やガタツキが生ぜず、使い易いものとすることができ、使用上頗る好都合である。しかも、その構造は、突子 8 に板ばね 7 を付す簡潔なもので済むから、低コストで製造でき、安価に提供できる。

【 0 0 0 9 】

これに加えて、請求項 2 の発明によれば、上記板ばね 7 の突端に設けた突子の先端面 9 を球面状にて、該球面状先端面 9 をその板ばね 7 の弾力で螺旋溝 5 の溝底面へ圧接させているので、その板ばね 7 には腰のある強力な弾力を確保でき、突子 8 に所要の適切な摩擦抵抗を適確に得ることができて、中皿 6 及び棒状化粧品 A の不意の移動やガタツキを皆無にでき、しかも、螺旋昇降の際には支障の無い適切な摺動を確保できる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 請求項 1 及び請求項 2 の発明に係る棒状化粧品繰出し容器の実施例を示す中皿下降限における截断正面図である。

【図 2】 同例の中皿上昇限における截断正面図である。

【図 3】 図 1 の要部を拡大して示す断面図である。

【図 4】 同例の分解斜視図である。

【図 5】 同例の所要部材の倒立斜視図である。

【図 6】 同部材の底面図である。

【符号の説明】

- | | |
|-------------|-------------|
| 1 ... 基筒 | 2 ... 案内起立筒 |
| 3 ... 案内縦長孔 | 4 ... 回転筒 |

10

20

30

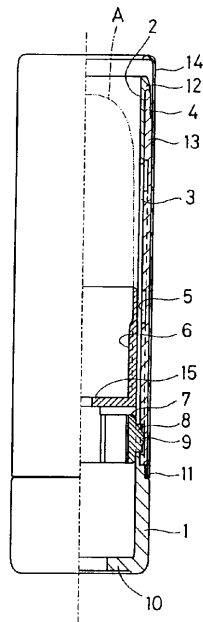
40

50

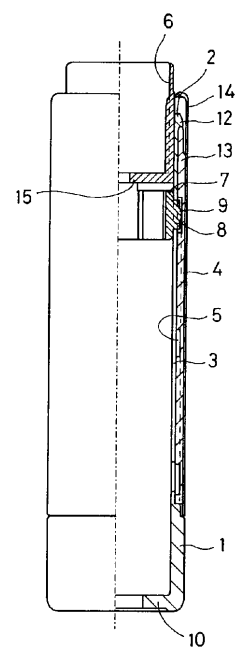
5 ... 螺旋溝
 7 ... 板ばね
 9 ... 先端面
 11... 凹段部
 13... 合成樹脂製胴筒
 15... 孔開き底壁

6 ... 中皿
 8 ... 突起
 10... 内向きフランジ
 12... 係止突条
 14... 金属製化粧筒
 A ... 棒状化粧品

【図 1】



【図 2】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl.⁷, D B 名)

A45D 40/12

A45D 40/06